

令和元年度 第4回宮崎支部評議会の概要報告

開催日時	令和元年12月4日(水)10:00~11:55
開催場所	宮崎支部会議室
出席者	上山評議員、川野評議員、佐藤評議員、塩月評議員、高橋評議員、谷口評議員、長鶴評議員、松浦評議員、谷田貝議長(五十音順)
議題	<p>(1) 令和元年度宮崎支部上半期事業実施結果報告について</p> <p>(2) 第100回運営委員会の報告について</p> <p>(3) その他</p>
議事概要(主な意見等)	<p>(1) 令和元年度宮崎支部上半期事業実施結果報告について</p> <p>■資料に沿って事務局より説明</p> <p>■主な意見や質問など</p> <p>(学識経験者)</p> <p>「健康宣言事業の推進」の項目で、生命保険会社等との協力連携については、覚書を締結したことで宣言事業所数も増え、とても良い取り組みだったと思われる。</p> <p>(被保険者代表)</p> <p>「ジェネリック医薬品使用促進」の項目で、使用割合の低い地域をGISを利用して抽出し使用を促進、とあるが、地域ごとの差は顕著に表れているのか。若年層の使用割合が低いのは、自治体の乳幼児医療等の制度により自己負担が軽減されていることも関係するのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>極端に使用割合が低い地域というのはいませんが、全国的に若年層については使用割合が低いです。医療費助成があり、自己負担が軽減されているのも関係があると思います。宮崎支部では過去に若年層の使用促進にかかるパイロット事業を実施して全国平均を超えたという経緯がありますので、今回年齢層を拡大して事業に取り組んでおります。</p> <p>(学識経験者)</p> <p>親としては、ジェネリック医薬品について認識していても子供には先発医薬品を使用させたい、という心理があると思う。さらに、医療費助成制度により自己負担が軽減されているので使用が進まないのではないかと思う。</p> <p>(学識経験者)</p> <p>「広報活動による理解促進」の項目で、広報誌、ホームページ、メールマガジン、などで広報を実施しているが、理解率の向上というのは非常に大事な部分であると思う。理解度調査の実施方法や調査内</p>

容はどのようなものなのか。

(事務局)

理解度調査については本部が業者に委託し実施しております。内容については、現金給付やインセンティブ制度等含め全般になります。

(被保険者代表)

1月から各地区で実施されている研修に参加した際に、他の参加者に聞いたところ、インセンティブ制度についてはなかなか理解できない、言葉が難しいとの声があった。限られた時間内ですべてを説明するのは難しいと思うが、もっと聞く側にわかりやすく、伝わるような説明を考えていただければと思う。

(事業主代表)

資格点検について、照会をしても回答がない医療機関については何か理由があるのか。また、再審査請求件数についての対前年度比等を教えていただきたい。

(事務局)

医療機関が回答しない理由はわかりませんが、未回答については、照会文書に記載しておりますが、過誤調整に同意したものとしてレセプトを返戻しますので、再審査請求を行うこととなります。再審査請求件数については前年度とあまり変わりません。

(被保険者代表)

資格喪失後受診を医療機関側で防ぐことはできないのか。

(事務局)

基本的に、医療機関は受診者から保険証を提示されると資格があるとみなしますので、資格がなくても本人が保険証を持っていれば、医療機関としては防ぐことはできません。今後マイナンバーによる資格確認が導入されれば、ある程度は解消されていくと思われま

(学識経験者)

内容点検の査定率について、KPIも設定されている項目だが、考え方についてもう少しお聞きしたい。

(事務局)

支払基金が一次審査をし、その後協会けんぽで二次審査をします。支払基金の一次審査における査定率が高いと協会けんぽの査定率は低くなる場合がありますし、その逆もあります。公平性を保つため、支払基金と協会けんぽの査定率を合算したものをKPIとしています。目標達成に向けて査定率は上げないといけませんが、そもそも医療機関が適正な請求をすれば査定率は低くなる、という部分もありま

す。

(2) 第100回運営委員会の報告について

■資料に沿って事務局より説明

■主な意見や質問など

(被保険者代表)

インセンティブ制度についてだが、確定値で順位が上がってよかったと思う。引き続き上位を目指して取り組んでいただきたい。資料にインセンティブ制度の見直しがされた場合のシミュレーションが載っているが、見直しの可能性等を教えていただきたい。

(事務局)

将来的に見直しがあるかどうかはわかりませんが、実績と伸びの評価割合や、評価指標そのものについても今後議論をされていくと思います。

(学識経験者)

事業計画案の中で、ナッジ理論を活用しての施策がいくつかあるが、支部の保健事業で具体的に考えているイメージ的なもの、リーフレット等はあるのか。

(事務局)

具体的には現段階ではございません。

(3) その他

(事業主代表)

医療保険制度におけるマイナンバーの活用については必須であり、このことは協会からももっと声を上げていくべきだと思う。また、ジェネリック医薬品について使用促進するのは良いが、ジェネリック医薬品だけでなく、医薬品全般的に、適正な使用をすすめていくことも重要である。それから、外国人労働者が増えていくことによる課題・問題についても対応できるようにしっかりと考えていく必要があると思う。

特記事項

- ・傍聴 協会けんぽ宮崎支部職員 1名
- ・次回の評議会は、令和2年1月15日に開催予定